



3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	3,280	29.3	135	-	130	-	68	-	17.95
通期	6,770	15.4	370	249.5	360	222.5	193	712.4	50.90

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期1Q	3,881,000株	2023年3月期	3,881,000株
② 期末自己株式数	2024年3月期1Q	94,158株	2023年3月期	96,158株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期1Q	3,785,216株	2023年3月期1Q	3,749,765株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社は、2023年5月31日に中期経営計画（2023年度～2025年度）を公表いたしました。中期経営計画の基本戦略では、「ソリューションパートナーとしての真価の発揮」に向け、以下3つの事業成長戦略と2つの経営基盤戦略を実行していくこととしております。当社グループとしては、これらの基本戦略を着実に遂行することを通じて業容拡大を図り、経営目標の達成を目指してまいります。

#### <事業成長戦略>

##### ① システムソリューション事業：事業領域のシフトおよび拡大

付加価値向上策としては、システム開発の上流工程および製造・販売型へのシフトによる高単価化、ならびにERP領域での事業拡大に向けて取り組みます。また、拡販策としては、自動車分野でのシステム開発技術の横展開による売上拡大を図ります。

##### ② エンジニアリングソリューション事業：ものづくり領域でのDXソリューション強化

付加価値向上策としては、「物流2024年問題」で社会的ニーズが強く高付加価値なFlexSim（3次元シミュレーションソフト）および同じく高付加価値なPLM事業の推進、また自社技術を用いた新規ソリューション開発等によるラインナップの拡充・高付加価値化を図ります。さらに、拡販策としては、販売チャネルの拡大に取り組みます。

##### ③ GPS事業：プラットフォーム上のサービス拡充

付加価値向上策としては、構築中の位置情報プラットフォームを活用したサービスラインナップの拡充による収益力の強化を、また、拡販策として海外市場への展開を図ります。

#### <経営基盤戦略>

##### ① 人材：戦略的事業推進の核となる人材の拡充・高度化

高付加価値な事業への人材シフト、領域拡大・付加価値向上に向けた人事制度の見直し、規模拡大に向けた採用強化、高い成果発揮に向けた教育制度の拡充に取り組みます。

##### ② M&A・アライアンス：ビジョン実現に向けた機動的・積極的な実施

ものづくりをワンストップで支援する体制構築に向けたM&Aや社会的問題解決に資するアライアンスについて、機動的・積極的に実施してまいります。

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあり、緩やかな回復が続いております。しかしながら、世界的な金融引き締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国景気を下押しするリスクとなっております。また、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある状況であります。当社グループが属する情報サービス産業においては、社会のデジタルトランスフォーメーション（DX）に対する需要を背景に、さまざまな分野において積極的なIT投資が継続しております。このような環境のもと、当社グループは、製造業のDX推進の実現に向けて、製造業向け各種ソリューション拡販体制強化のため、売上拡大に向けた取組みを継続して行ってまいりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間においては、売上高は1,439百万円（前年同期比19.6%増）、営業損失は17百万円（前年同期は営業損失175百万円）、経常損失は20百万円（前年同期は経常損失182百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は19百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失131百万円）となりました。

各セグメント別の状況は次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの名称を変更しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (セグメント情報等)」に記載のとおりです。

#### (システムソリューション事業)

主力の組込みシステム開発事業は、情報家電・車載の旺盛な需要を背景に、デジタル情報家電、自動車分野を中心に売上を伸ばしましたが、ハードウェアの受託開発については、部材調達難が継続しております。ERP事業については、2023年1月に完全子会社化したログイン株式会社が収益に貢献いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は931百万円（前年同期比14.7%増）、セグメント利益は128百万円（前年同期比4.8%減）となりました。

#### (エンジニアリングソリューション事業)

主力商材である3次元CAD/CAMソフトウェア「Mastercam」においては、ストック売上であるメンテナンス・サ

ポート売上が順調に増加いたしました。また、3次元シミュレーションソフトウェア「FlexSim」においては、前連結会計年度から引き続き顧客ニーズに応え追加したサブスクリプションモデルを含むライセンス販売が順調に拡大し、加えてシミュレーションモデルの作成受託も堅調で売上は大幅に伸びました。PLM事業については、2022年12月に完全子会社化した株式会社TOPWELLが収益に貢献いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は403百万円（前年同期比38.9%増）、セグメント利益は62百万円（前年同期比150.1%増）となりました。

(GPS事業)

「ココダヨ」サービス全体のインストール数は110万件と堅調に推移しており、インストール数の増加に合わせストア経由の売上は増加しております。

当第1四半期連結累計期間においては、株式会社NTTドコモが提供するスマートフォンアプリ使い放題サービス「スゴ得コンテンツ」向けサービスにおいて、「スゴ得」サービス全体の売上単価が増加したことから、「ココダヨ」の売上も増加しました。また、新たな収益の確立に向けた新サービスの開発にも引き続き取り組んでおります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は107百万円（前年同期比3.8%増）、セグメント利益は30百万円（前年同期比56.7%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は2,611百万円となり、前連結会計年度末に比べて214百万円減少いたしました。これは、主に現金及び預金の増加151百万円、売掛金の減少413百万円などによるものであります。固定資産は1,275百万円となり、前連結会計年度末に比べて20百万円減少いたしました。これは、主にのれんの減少19百万円などによるものであります。

この結果、総資産は3,886百万円となり、前連結会計年度末に比べて235百万円減少いたしました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は1,351百万円となり、前連結会計年度末に比べて150百万円減少いたしました。これは、主に買掛金の減少98百万円、夏季賞与の支給に伴う賞与引当金の減少162百万円によるものであります。固定負債は727百万円となり、前連結会計年度末に比べて27百万円減少いたしました。

この結果、負債合計は2,078百万円となり、前連結会計年度末に比べて178百万円減少いたしました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は1,808百万円となり、前連結会計年度末に比べ57百万円減少いたしました。これは、主に配当金の支払いによる利益剰余金の減少37百万円、及び親会社株主に帰属する四半期純損失による利益剰余金の減少19百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年5月15日に発表いたしました業績予想に変更はありません。なお、今後業績予想の修正が必要であると判断した場合には速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,075,771	1,227,198
受取手形	674	—
売掛金	1,178,472	765,415
契約資産	311,088	288,434
電子記録債権	73,490	78,900
商品	17,927	20,408
仕掛品	67,434	89,375
原材料及び貯蔵品	17,966	39,952
未収入金	5,802	12,151
その他	83,010	94,541
貸倒引当金	△5,680	△5,324
流動資産合計	2,825,959	2,611,056
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備 (純額)	68,751	66,852
車両運搬具 (純額)	0	—
工具、器具及び備品 (純額)	53,613	48,108
有形固定資産合計	122,364	114,961
無形固定資産		
のれん	706,386	686,419
商標権	9,171	8,928
ソフトウェア	57,703	53,417
その他	37,711	49,184
無形固定資産合計	810,972	797,949
投資その他の資産		
出資金	1,200	1,200
敷金及び保証金	112,848	111,621
繰延税金資産	223,029	235,474
その他	26,558	15,359
貸倒引当金	△1,100	△1,100
投資その他の資産合計	362,536	362,555
固定資産合計	1,295,873	1,275,467
資産合計	4,121,833	3,886,523

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	306,650	208,410
短期借入金	500,000	500,000
1年内返済予定の長期借入金	79,668	77,946
未払金	190,506	188,995
未払法人税等	49,979	17,998
契約負債	8,251	59,552
賞与引当金	261,213	98,633
受注損失引当金	855	—
その他	104,873	199,927
流動負債合計	1,501,998	1,351,464
固定負債		
長期借入金	396,418	373,604
退職給付に係る負債	356,402	351,643
繰延税金負債	1,661	1,757
固定負債合計	754,482	727,005
負債合計	2,256,480	2,078,470
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	366,372	366,372
資本剰余金	498,317	498,696
利益剰余金	1,005,504	947,724
自己株式	△4,841	△4,740
株主資本合計	1,865,352	1,808,052
純資産合計	1,865,352	1,808,052
負債純資産合計	4,121,833	3,886,523

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	1,203,019	1,439,196
売上原価	755,925	917,170
売上総利益	447,094	522,025
販売費及び一般管理費	622,817	540,006
営業損失(△)	△175,723	△17,980
営業外収益		
受取利息	21	6
雑収入	268	2,290
助成金収入	—	570
その他	17	293
営業外収益合計	307	3,160
営業外費用		
支払利息	194	1,851
支払手数料	215	—
為替差損	7,079	3,739
その他	15	324
営業外費用合計	7,504	5,915
経常損失(△)	△182,920	△20,735
特別利益		
固定資産売却益	—	636
特別利益合計	—	636
特別損失		
固定資産除却損	—	228
特別損失合計	—	228
税金等調整前四半期純損失(△)	△182,920	△20,327
法人税、住民税及び事業税	3,869	11,953
法人税等調整額	△55,453	△12,348
法人税等合計	△51,583	△395
四半期純損失(△)	△131,336	△19,931
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△131,336	△19,931

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純損失(△)	△131,336	△19,931
その他の包括利益	—	—
四半期包括利益	△131,336	△19,931
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△131,336	△19,931

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	システムソ リューション事 業	エンジニア リングソリュー ション事業	GPS事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	809,183	290,362	103,473	1,203,019	—	1,203,019
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,172	—	—	3,172	△3,172	—
計	812,355	290,362	103,473	1,206,191	△3,172	1,203,019
セグメント利益	135,009	25,028	19,609	179,647	△355,370	△175,723

(注) 1. セグメント利益の調整額は、報告セグメントに配賦できない営業費用であり、その主なものは本社管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	システムソ リューション事 業	エンジニア リングソリュー ション事業	GPS事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	928,482	403,335	107,378	1,439,196	—	1,439,196
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,260	—	—	3,260	△3,260	—
計	931,742	403,335	107,378	1,442,456	△3,260	1,439,196
セグメント利益	128,479	62,591	30,731	221,801	△239,781	△17,980

(注) 1. セグメント利益の調整額は、報告セグメントに配賦できない営業費用であり、その主なものは本社管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(報告セグメント名称の変更)

当第1四半期連結会計期間より、事業内容をより適正に表示するため、従来「デジタルソリューション事業」「ココダヨ事業」としていた報告セグメントの名称を、「システムソリューション事業」「GPS事業」に変更しております。当該変更は報告セグメントの名称変更のみであり、セグメント情報に影響はありません。なお、前第1四半期連結累計期間のセグメントについても、変更後の名称で記載しております。